

【学校教育目標】 夢に向かって 自ら学ぶ 豊かで たくましい生徒



TEL 048-768-5454

心のホット相談室 TEL 048-764-1110

<http://kuronishichu.style.coocan.jp/>



第 7 号

令和 7 年 11 月 1 日

生徒数		
1 年	68 名	2 学級
2 年	84 名	3 学級
3 年	83 名	3 学級
4 組	3 名	1 学級
5 組	3 名	1 学級
合計	241 名	10 学級

## ブータンとの交流会

秋の気配も一層深まり、冬の到来さえ感じられる季節となりました。運動会と合唱コンクールという大きな学校行事を終え、子ども達はまた、目標も新たに学校生活を前向きに送っています。

少し前の話ですが9月18日(木)第6校時、岡崎悠作先生をお招きし2学年生徒とブータンの中学3年生との交流会を行いました。岡崎先生は2023年から翌々年8月までJICA青年海外協力隊としてブータンでがけ崩れ対策の支援及び小中学生を対象に理数科目の授業を担当されていました。帰国後、ブータンとの交流を深めたいという思いから蓮田市出身ということもあり蓮田市教育委員会を通して本校へ依頼があり実現したところです。

岡崎先生は準備のため早めに来校されました。出で立ちはブータンの民族衣装で日本の着物に少し似ていますが一見して異国の服装だとわかるものでした。いつもそれで学校へ行っていたそうです。授業前に私と校舎内を歩いていると生徒達は「こんにちは。」と元気の挨拶を交わしながら、「この方は・・・??？」という感じでした。2年生のフロアを歩く時、私は意図的に生徒に「今日のブータンの授業をしていただく先生です。」と言うと、生徒達はブータンの民族衣装をまとった先生の姿に驚きながらも親しげな笑みを浮かべてあいさつをしてくれました。交流会が始まり、まず岡崎先生からブータンについての説明がありました。スクリーンに地図が映し出され「ブータンがどこかわかる人いますか。」という質問に数名の生徒がさっと手を挙げ、指名された生徒が前に出て正しい位置を指し示すと、岡崎先生は驚くと共に感激されていました。説明後、質問を考える時間があり、いよいよ現地校とビデオ通話交流の開始です。現地校と繋がり互いの様子がスクリーンに映し出されると、お互いに「おおおお！（ブータン側の言語の表現はわかりませんが）」という歓声が上がり自然に手を振り合いました。こちらは半袖、ハーフパンツ、向こうは民族衣装。それが制服で運動もそれで行うそうです。ウォーミングアップでお互いにYes.かNo.で答える質問をし合いYes.の人は座わる。最後に1人だけ立っている状況を作った方が勝ちというゲームをしました。「質問のある人」と岡崎先生が聞くとさっそく手を挙げたこちら側の生徒から1つ目の質問です。前にあるタブレットのカメラに近づき「Do you have Bhutan Soul? (あなたはブータン魂をもっていますか。)」といういきなりの質問。アシストしていただき意味がわかったと見えてブータンのYes.の生徒が一人、また一人と座っていきます。ブータンの生徒は結局全員が座りました。1回戦は黒浜西中の負けですが、その後も盛り上がり、質問タイムとなりました。こちら側は英語で質問し、ブータン側は英語の他、日本語での質問もあり日本語を練習してくれていたようです。アニメ、スポーツ選手、ゲームのこと等、驚いたのはICTの分野についての質問がブータン側からあったことでした。ICT学習が進められているのでしょうか。文化や生活習慣の違いはあれども、お互いに考えていることは一緒だと感じられたことも多かったです。お互いに質問し答えるというキャッチボールが楽しくテンポ良く続きましたが、ブータン側から「ブータンのことについて何か知っていますか。」と聞かれると挙がる手が止まり「誰か答えられる人いるか・・・」という雰囲気の中、間が空いてしまいました。私はその雰囲気を察し「ここは私の出番か。」と心の中でつぶやき勇気を出して「はい！」と手を挙げタブレットのカメラのところへ行きました。「I'm the principal of this school. Bhutan is the happiest country of the world! (私はこの学校の校長です。ブータンは世界で一番幸せな国です。)」と答えるとブータン側に通じたらしく盛り上がってくれました。最後はお互いに相手側の言語で「さようなら」をして名残惜しかったところですがビデオ通話を終えました。その次の日の生徒のやり取り帳には「とても楽しかった。」「ブータンに行ってみたい。」等、この交流会が好評であったことがわかる感想が多く見られました。いつかお互いの国に行ったり、偶然交流した生徒同士がどこかで出会い「あの時交流したね。」という奇跡が起きるといいなと思います。このような貴重な機会をいただいたすべての関係者の方々に感謝いたします。ありがとうございました。

保護者の皆様、地域の皆様、今後も、本校の教育活動に対して、変わらぬご理解とご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。